

男性自衛官が「育メン」に奮戦中！



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己1等空佐）総務課に所属する佐々木隆行2等陸曹は、8月24日（木）に誕生した第2子となる女の子の育児等を行うため、現在育児休業を取得している。育児休業中は、3歳になる長女を毎日保育園へ送迎するほか、家の掃除や洗濯、買い物を行っている。また、産まれたばかりの第2子のオムツ交換や、泣いた時にはお得意の変顔と関西弁であやしている。

こんな「育メン」に奮戦中の佐々木2曹は「長女が誕生した時は、すべて嫁さん任せで迷惑を掛けたので、二人目の子供が誕生した時は育児休業を取得し罪滅ぼしをしたいと考えていました。今回、思い切って育児休業を取りたい旨を職場で申し出たところ、本部長以下、上司の方々より遠慮することなく育児休業を取得するように言っていたときとても助かりました。これで嫁への恩返しもできます」と話していた。

静岡地本としては、政府・防衛省として推進している「ワークライフバランス」に関する施策に積極的に対応すべく、今後も育メンだけでなく「育ウーマン」にも配慮した勤務を推進していく。

学生が「エアクッション艇」を見学



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己1等空佐）は、8月29日（火）、今沢海岸（沼津市）において行われた海上自衛隊の「エアクッション艇研修」に参加者9人を引率した。

この研修は、自衛隊を志望している学生などを対象に、海上自衛隊の輸送艦「おおすみ」等に搭載されているエアクッション艇（通称LCAC）を実地見学することで、海上自衛隊の任務や装備品について理解を深めてもらうと行われた。

研修では、エアクッション艇の隊員から任務や構造などの概要説明を受けた後、操縦席や推進力を得るためのプロペラなどを見学して回った。普段目にするのではない実物のエアクッション艇を目の前に、参加者たちは興奮気味に艇体に触れたり、写真に収めるなどしていた。

研修を終えた参加者からは「護衛艦のような大きな艦艇を見たことはあったが、初めてエアクッション艇を間近で見ると興味がいっぱい」などの感想が聞かれ、大変満足した様子であった。

静岡地本は、今後もこのような実物に触れられる機会を通じて海上自衛隊への理解を深めてもらい、将来海上自衛官を志すきっかけとなる広報を積極的に行っていく。